

平成 2 5 年度 第 1 回 文学部学生・教員懇談会概要

1. 日 時 平成 2 5 年 6 月 2 0 日 (木) 1 2 時 1 0 分から 1 2 時 5 0 分まで
2. 場 所 法経学部第一会議室
3. 出席者 学生 : 3 8 名

学部 : 2 0 名

山田(賢)学部長、石井評議員、土田学生委員長、栗田学生委員(教員学生懇談会担当)、柴学生委員、出口学生委員、保坂留学生委員長、片桐留学生委員、高留学生委員、岡部留学生委員、米村行動科学科学科長、趙史学科学科長、村岡日本文化学科学科長、篠崎国際言語文化学科学科長、忽那教務委員長、菅野入試委員長、上村史学科教授、阿部行動科学科教授

酒井学部学務グループ専門員、塚田学部学務グループ主任

本部 : 5 名

長澤教育担当理事、織田学務部長、杉田図書館学術コンテンツ課長、天野教育企画課副課長、増田学生支援課副課長

留学生からの質問・要望

Q 新大久保でのデモやヘイト・スピーチにみられるように、文化摩擦が目立ち、相互の文化的背景が無視されているように思われる。その対策として、日本人と韓国・中国人の文化交流のための授業はできないのか。(行動科学科 3 年)

A 全学的な課題である。文学部としても方法を模索する。

「イメージ文化論 b」(後期集中・2 月初め)では、上記のような問題意識もあることから、在日コリアンでマイノリティと文化についての研究者である徐京植氏に集中講義をお願いしている。ナチス期のユダヤ人の美術や証言文学を通してマイノリティの問題を検討した後、現代のコリアン等におけるディアスポラの問題を考えるという内容になる予定である。

また、中国の大学と交流を深めるため、昨年来、魯東大学、煙台大学との交流協定の準備をしている。まず、7 月 23 日-28 日、魯東大学文学院院长・副院长と、講師(千葉大学人社研修生)が千葉大学を訪問し、その際、学生との交流の機会を作る予定なので、是非、参加してほしい。

さらに、まだ企画段階であるが、1 年生向けの必修授業「国際言語文化学入門」の、後期の講義の枠を使ってゲストスピーカーを招いたり、各国留学生と学生・TA 院生との対話の機会を設けるという案を現在検討している。(国際)

Q 図書館の 2 4 時間開館はできないか、9 時でなぜ閉めるのか、もう少し長くやってほしい。

(行動科学科 3 年)

A 法律の縛りはないが、夜間の安全のためもあって、時間制限をしている。しかし、試験期間中については利用時間の拡大を考えている。(学術コンテンツ課長)

Q 奨学金の1万円の補助は、1年次だけでなく、その他の学年でも利用できないのか。1年次という制限はなぜつけるのか。体育館は個人的に利用できないのか。(行動科学科3年)

A 支給を1年に限るのは、生活基盤をサポートするためと、予算の制限のため。(学務部長)
体育館については、費用、備品の管理の問題で個人解放は難しい。(学生支援課副課長)

[留学生委員長の発言]

1年生時に限らず、他の学年で使えないかという問題で、予算の問題ではないのではないかと。

A 1年次をサポートするという主旨でやっている。(学務部長)

Q 1年次で寮に入ると予算の補助がもらえないので、ほかの学年でも使えるようにできないか。
(日本文化学科4年)

A 寮生は、寮を利用しているというサポートを受けているので、そのほかの人にお金を出している。
(学務部長)

[学生委員長の発言]

2年次以降寮に入り、1年次にサポートを受ける人はどうか。

A いろいろなケースがあるので、検討したい。(学務部長)

カリキュラム・勉学全般に関する質問

Q 専門科目の非常勤が減り、ほとんど授業選択の余地がない。(行動科学科3年)

A 全学科で似たような状況であり、今後も非常勤講師コマが増える見込みはない。
関連の深い授業が同じ時間帯に開かれないようにする等の調整をすることで対応していきたい。
(学部長)

Q 授業選択の余地を増やす対策として、(教員の負担は増えるが)前年度と同じ内容の授業は開講しない、等の工夫もしてほしい。(行動科学科)

A 教員に周知し、考慮を図るように要請する。

学生の皆さんにも、他の講座や学科の授業を取ることも選択肢として考えてほしい。(行動)

Q 史学科教員の退職等に伴い、日本中世史の授業が2つしかない。これは最低限維持してほしい。

(史学科3年生)

A 教育学部で開講されている歴史関係の授業も「専門科目」として認定されるよう調整する、等の形で努力していきたい。教員や非常勤講師枠が急激に削減されている状態に対しては、学生がこのような場で大学当局に対して声を上げていくことが重要。(学部長)

Q 文学部で開講されている司書科目と教育学部で開講されている司書科目が同じ曜日・時限に重なっている。(史学科)

A それぞれが多くの人数を抱える部局なので、調整は至難の業だが、文学部の開講授業を調整することにより調整努力する。(学部長)

Q 休講や集中講義、オリエンテーション等に関する通知が黒板や掲示だけなのは不便。一斉メール等で通知できないのか。(史学科・社会人入学生)

A 休講掲示はウェブ上の「電子掲示板」にも掲載されるので、確認してほしい。一斉メールの送信ができるかどうかは全学のシステムとも関係するので、問い合わせてみる。(学部長)

Q 教育実習を4年で行なうと就職活動等と重なり、厳しい。教育学部は3年・4年で教育実習を行なっているのだから、文学部でも3年でできないか。(日本文化学科4年)

A 「基礎学力をつけた後」という原則から4年次で行なう形になっているが、(正・副専攻のある)教育学部でも一つしか免許を取得しない学生は3年後期に教育実習を行なうだけで済んでいる。

(理事、学務グループ)

A 可能かどうか調査したい。(学部長)

Q 「民俗学」、「芸能」の専任教員を置いて欲しい。(日本文化学科3年)

Q ネイティブ・スピーカーの先生がいない語学が多い。最低1名は配置してほしい。

ヨーロッパだけでなくアジア・アフリカ・中東等の言語文化に関する授業を開講してほしい。言語だけでなく、文化に関する授業も増やしてほしい。(国際言語文化学科4年)

Q 必修科目が少なすぎ、学生の知識が偏る。(国際言語文化学科4年)

(上記3つの質問について)

A 文学部では、開講科目の多様性を目指しているので、可能な限り対応するよう努力する。

Q 成績評価基準が教員によってまちまちである。(厳しい試験の結果のみで評価する先生もあれば、ノート「持ち込み可」の先生もある、など)。努力の結果が客観的に反映される評価のあり方を工夫してほしい。(国際言語文化学科4年)

A シラバスに記載している評価基準を徹底するよう、教員にあらためて周知する。

施設等に関する質問

Q キャンパスのどこに何かあるか分からない。ホームページ等に地図を載せてほしい。
(行動科学科4年)

A 地図の整備に向け、昨年度、学内の通りの名を決めたりした。地図は鋭意作成中である。
(学務部長)

Q 本を検索してみると、他学部等に所蔵されていることが多い。図書館に集中してほしい。
(行動科学科4年)

A 教員の研究目的で研究室に所蔵されている場合が多いが、毎年、利用の終わった本は図書館に戻してくれるよう呼びかけている。(学術コンテンツ課長)

〔教育担当理事の発言〕

学生諸君の、特にカリキュラムに関する要望は切実であることが分かった。予算の問題もあるが、努力していきたい。

以上